

平成 28 年度  
島田市総合計画の策定に向けた市民意識調査  
(住民アンケート)

**【設問集計結果資料】**

## 0 本調査について

### 1 調査の概要

#### (1) 調査の概要

本調査は、これからの島田市を支えてくださる皆様に、日ごろ感じておられることをお聞きし、平成 30 年度を初年度とする新しい総合計画づくりに役立てるために実施したものです。

対 象	島田市に居住する 18 歳以上の男女 (住民基本台帳無作為抽出：平成 28 年 7 月 31 日現在)
方 法	郵送による配付・回収
期 間	平成 28 年 8 月 26 日から 9 月 16 日まで
項 目	1 回答者の属性（あなたご自身について） 2 第 1 次総合計画（基本構想）の総括・検証について 3 今後のまちづくりについて 4 自由意見

#### (2) 配布数及び回収結果

配布数	3,000
有効回収数	1,015
有効回収率	33.8%

### 2 結果数値の扱いについて

- ・グラフ表記の比率はすべて%で表示していますが、小数点第 2 位を四捨五入して小数点第 1 位まで示しているため、合計が 100.0%にならない場合もあります。
- ・各グラフ及び集計表の比率は、母数に対する割合を示しています。
- ・母数となるべき実数は回答者数「N」として示し、複数回答が可能な設問についても、比率算出の母数は回答者数とし、それぞれの選択肢の比率を算出しています。

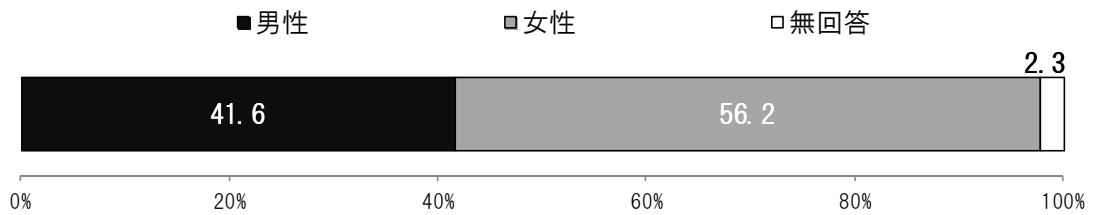
# 1 あなた自身のことについて

---

## 問1 性別

回答者の性別は、「男性」が 41.6%、「女性」が 56.2%となっており、女性の回答率が男性を上回っています。

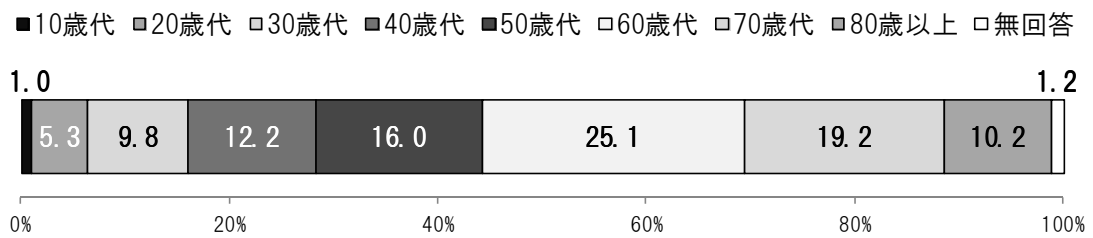
【単数回答】【N=1,015】



## 問2 年齢

年齢は、「60歳代」が 25.1%と最も高く、次いで、「70歳代」が 19.2%となっています。

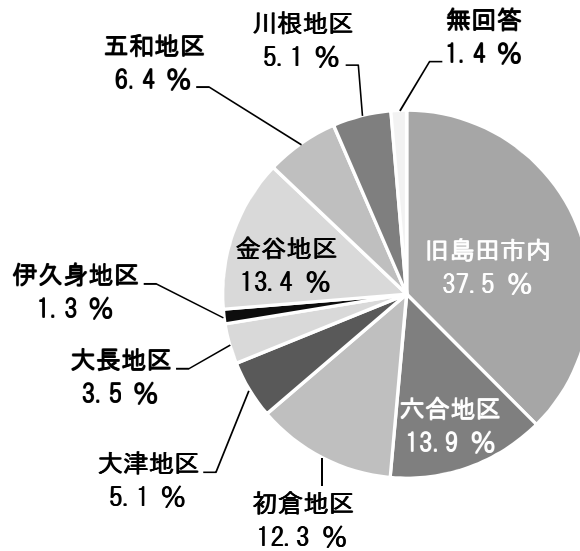
【単数回答】【N=1,015】



### 問3 居住地区

居住地区は、「旧島田市内」が 37.5%と最も高く、次いで、「六合地区」が 13.9%、「金谷地区」が 13.4%となっています。

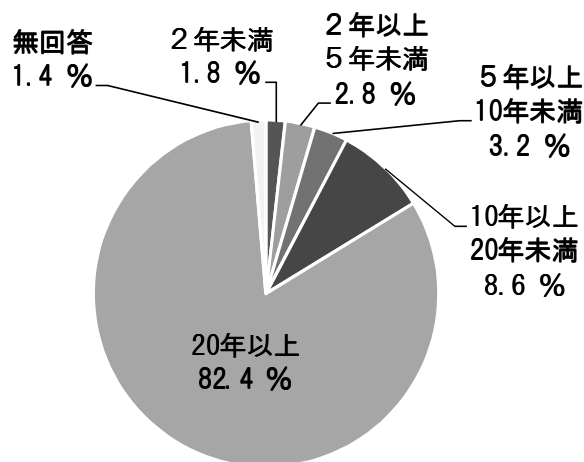
【単数回答】【N=1,015】



### 問4 居住年数

居住年数は、「20年以上」が 82.4%と最も高く、次いで、「10年以上 20年未満」が 8.6%となっています。

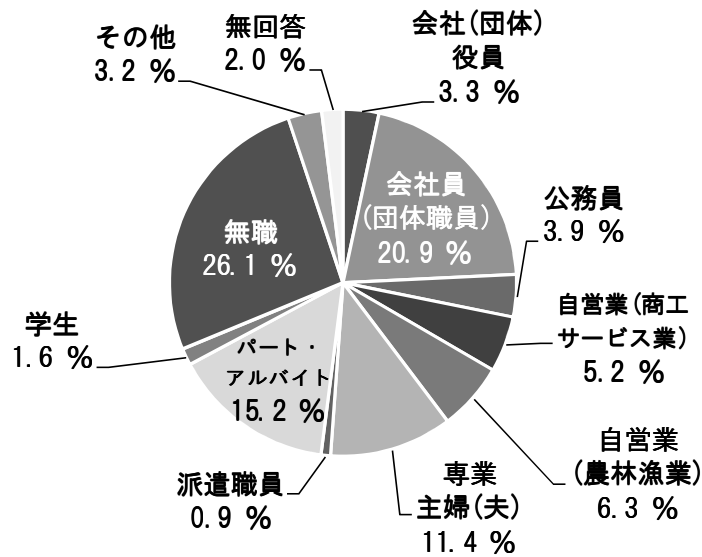
【単数回答】【N=1,015】



### 問5 職業

職業は、「無職」が26.1%と最も高く、次いで、「会社員(団体職員)」が20.9%、「パート・アルバイト」が15.2%となっています。

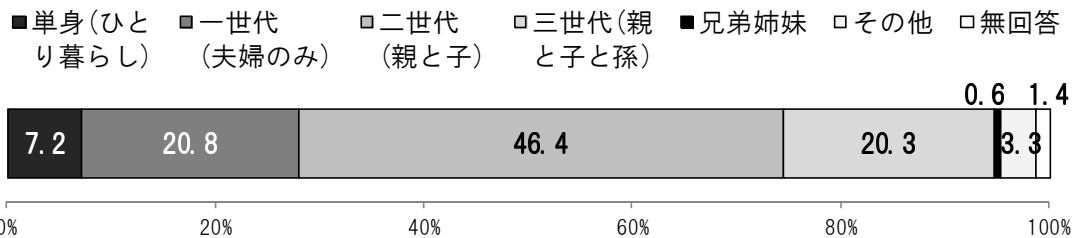
【単数回答】【N=1,015】



### 問6 家族構成

家族構成は、「二世世代(親と子)」が46.4%と最も高く、次いで、「一世代(夫婦のみ)」が20.8%、「三世代(親と子と孫)」が20.3%となっています。

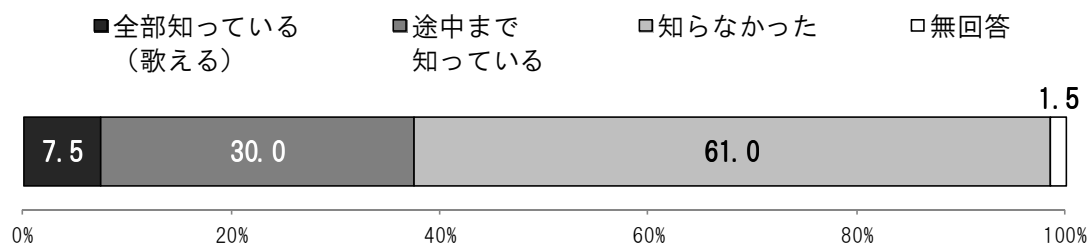
【単数回答】【N=1,015】



問7 島田市歌（市歌1番から3番まで）の認知度

島田市歌の認知度については、「知らなかった」が61.0%と最も高く、次いで、「途中で知っている」が30.0%、「全部知っている（歌える）」が7.5%となっています。

【単数回答】【N=1,015】



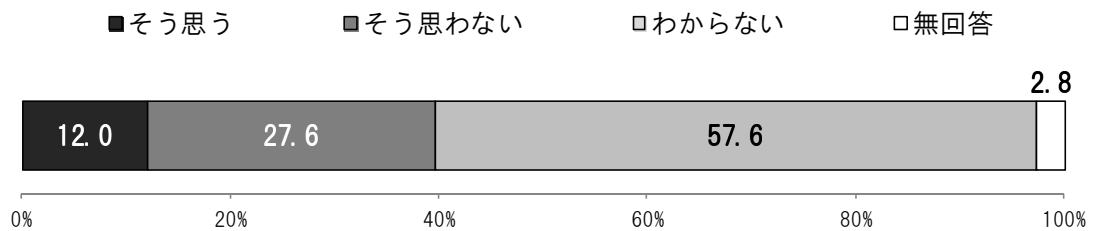
## 2 第1次総合計画（基本構想）の総括・検証について

### 問8 市の将来像

現在の島田市総合計画では、市の将来像として「人と産業・文化の交流拠点 水と緑の健康都市 島田」を掲げていますが、現在そのような「都市」になっていると思いますか。 <1つだけに○印>

現在の島田市が第1次総合計画で掲げている将来像のような都市になっていると思うかについては、「わからない」が57.6%と最も高く、次いで、「そう思わない」が27.6%、「そう思う」が12.0%となっています。

【単数回答】【N=1,015】



## 問9 分野ごとの目標像

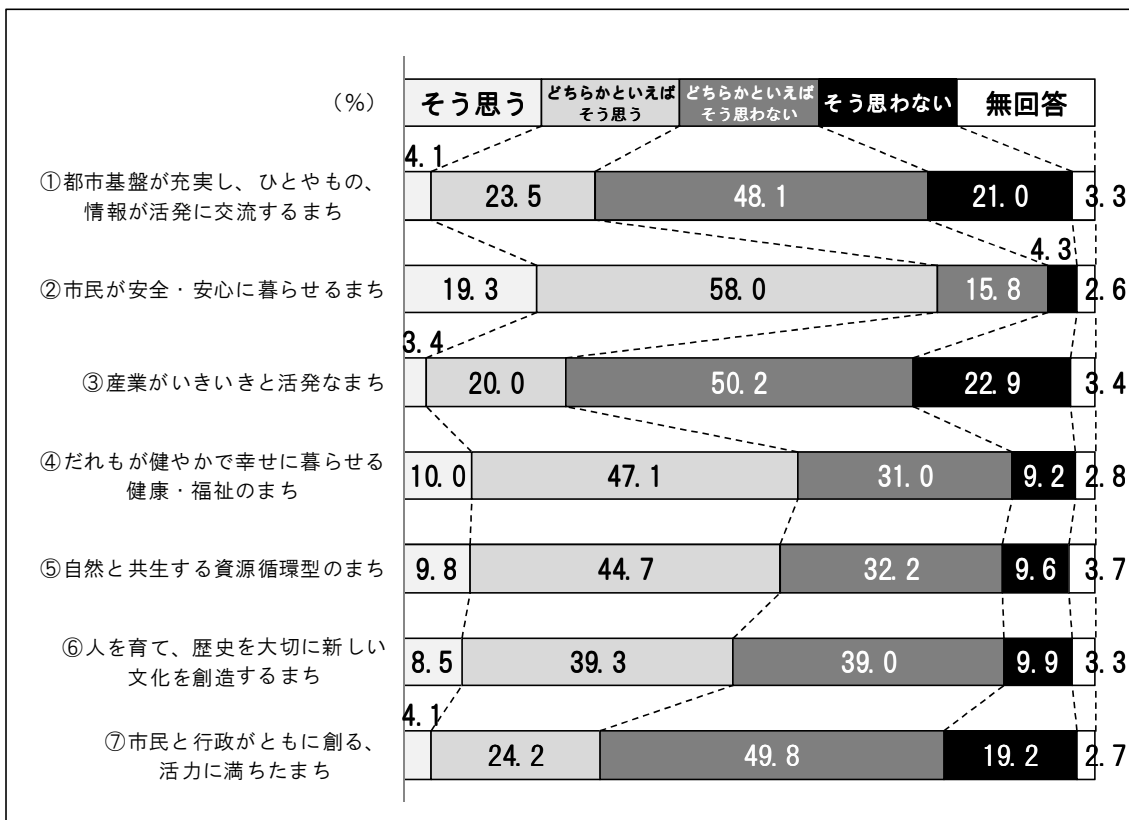
現在の総合計画では、まちづくりを進めていくための分野ごとに目標像を定めていますが、以下のそれぞれの目標に示す状態になっていると思いますか。

分野ごとの目標像が実現出来ているかについて、最も高い評価を得ている分野は「②市民が安全・安心に暮らせるまち」で、肯定的な評価（「そう思う」と「どちらかといえば思う」の合計、以下同じ）が77.3%に達しています。次いで、「④だれもが健やかで幸せに暮らせる健康・福祉のまち」（肯定57.1%、否定40.2）、「⑤自然と共生する資源循環型のまち」（肯定54.5%、否定41.8）などが過半数の肯定評価を得ており、日常の幸福感や暮らしやすさなどにつながる分野での評価が高い傾向にあります。

一方、否定的な評価（「どちらかといえば思わない」と「そう思わない」の合計、以下同じ）が目立つものは、否定評価の高いものから順に「③産業がいきいきと活発なまち」（肯定23.4%、否定73.1%）、「①都市基盤が充実し、ひとやもの、情報が活発に交流するまち」（肯定27.6%、否定69.1%）、「⑦市民と行政がともに創る、活力に満ちたまち」（肯定28.3%、否定69.0%）などで、いずれも否定が肯定を大きく上回っており、地域の活力や経済発展などにつながる分野での評価が低い傾向にあります。

その他として、「⑥人を育て、歴史を大切に新しい文化を創造するまち」では、肯定が47.8%、否定が48.9%となっており、評価がほぼ半々に分かれています。

【単数回答】【N=1,015】





## 問 10 取組に対する満足度

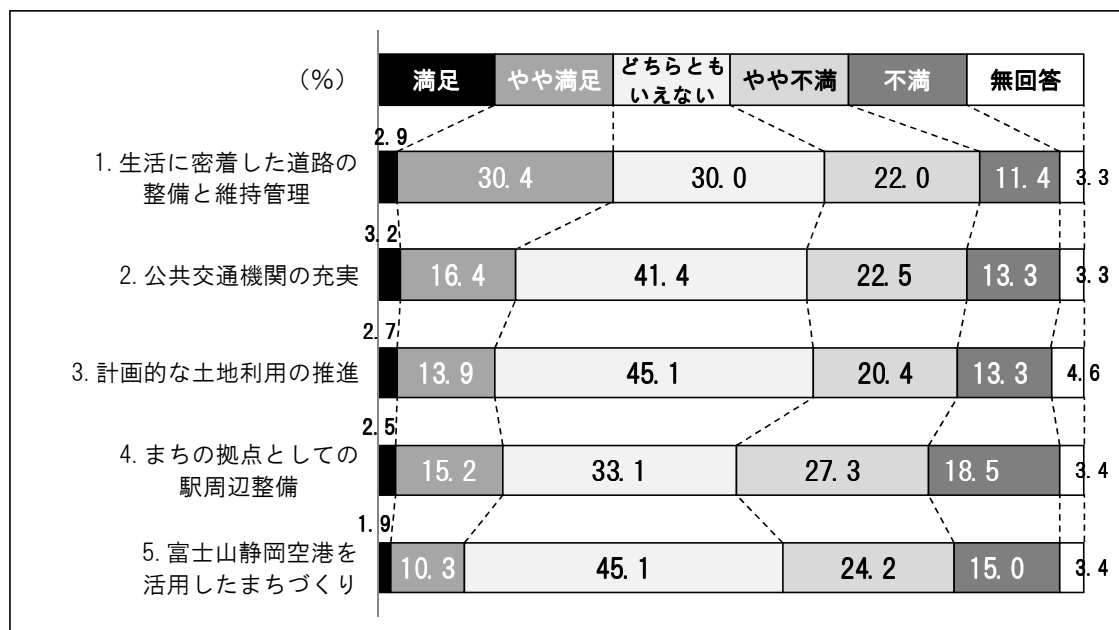
現在の総合計画で進めてきた、まちづくりの取組（重点プロジェクト）について、それぞれどう思いますか。これまでの取組に対する『満足度』についてそれぞれ1～5の中から1つに○印をつけてください。

### ①都市基盤が充実し、ひとやもの、情報が活発に交流するまち

「①都市基盤が充実し、ひとやもの、情報が活発に交流するまち」の分野に関わる取組の中で、最も満足度が高いものは「1. 生活に密着した道路の整備と維持管理」で、『満足』（「満足」と「やや満足」の合計、以下同じ）の割合が33.3%となっています。一方、『不満』（「不満」と「やや不満」の合計、以下同じ）の割合も33.4%あり、評価はほぼ半々に分かれています。

その他4つの取組は、いずれも『満足』が2割未満であるのに対して『不満』が3割を超えており、満足度としてはやや低い傾向にあります。とくに「4. まちの拠点としての駅周辺整備」は、全21項目中で『不満』の割合が2番目に高い45.8%となっています。

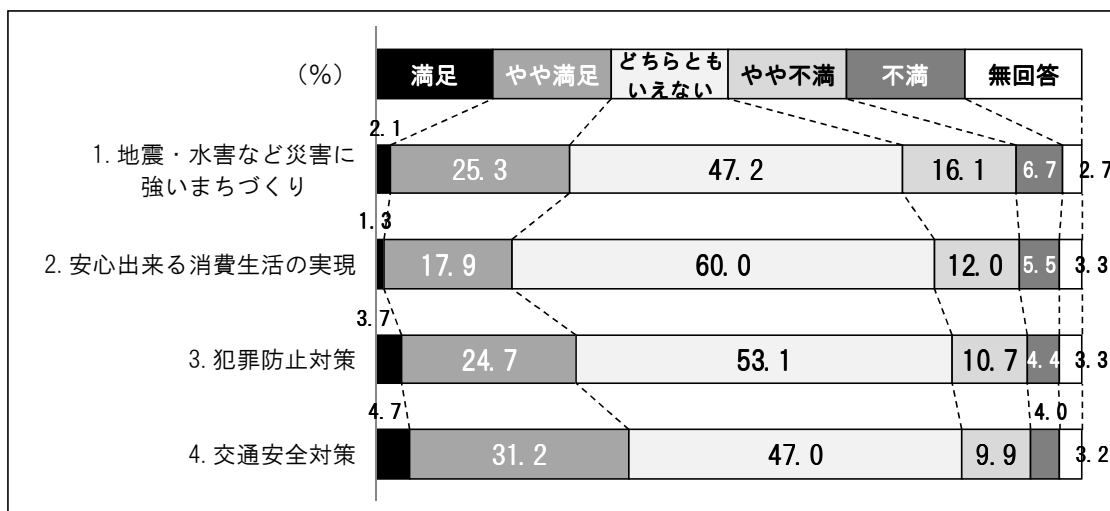
【単数回答】【N=1,015】



## ②市民が安全・安心に暮らせるまち

「②市民が安全・安心に暮らせるまち」に関わる取組の中で最も満足度が高いものは「4. 交通安全対策」(『満足』35.9%、『不満』13.9%)で、全21項目中でも最も高い満足度となっています。次いで、「3. 犯罪防止対策」(『満足』28.4%、『不満』15.1%)、「1. 地震・水害など災害に強いまちづくり」(『満足』27.4%、『不満』22.8%)、「2. 安心出来る消費生活の実現」(『満足』19.2%、『不満』17.5%)となっており、この分野の取組はいずれも『満足』が『不満』を上回っています。

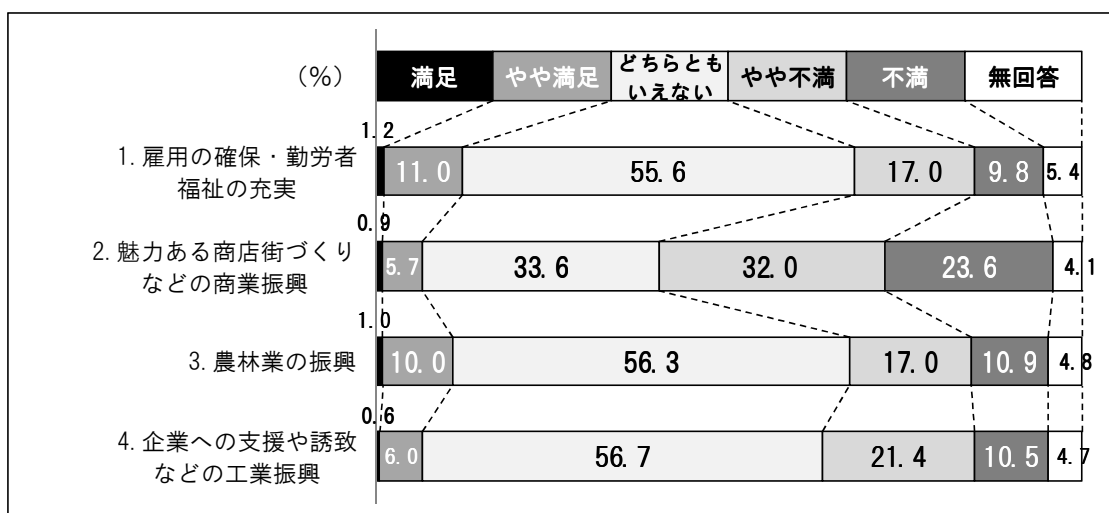
【単数回答】【N=1,015】



### ③産業がいきいきと活発なまち

「③産業がいきいきと活発なまち」は、問9で目標像の実現度が最も低いと評価された分野であり、個別の取組においてもすべての項目で『満足』の割合を『不満』の割合が大きく上回る結果となっています。とくに「2. 魅力ある商店街づくりなどの商業振興」では、『満足』が6.6%であるのに対し『不満』は55.6%と、全21項目中で最も低い評価となっています。その他の取組の評価は、『不満』の高い順から「4. 企業への支援や誘致などの工業振興」(『満足』6.6%、『不満』31.9%)、「3. 農林業の振興」(『満足』11%、『不満』27.9%)、「1. 雇用の確保・勤労者福祉の充実」(『満足』12.2%、『不満』26.8%)となっています。

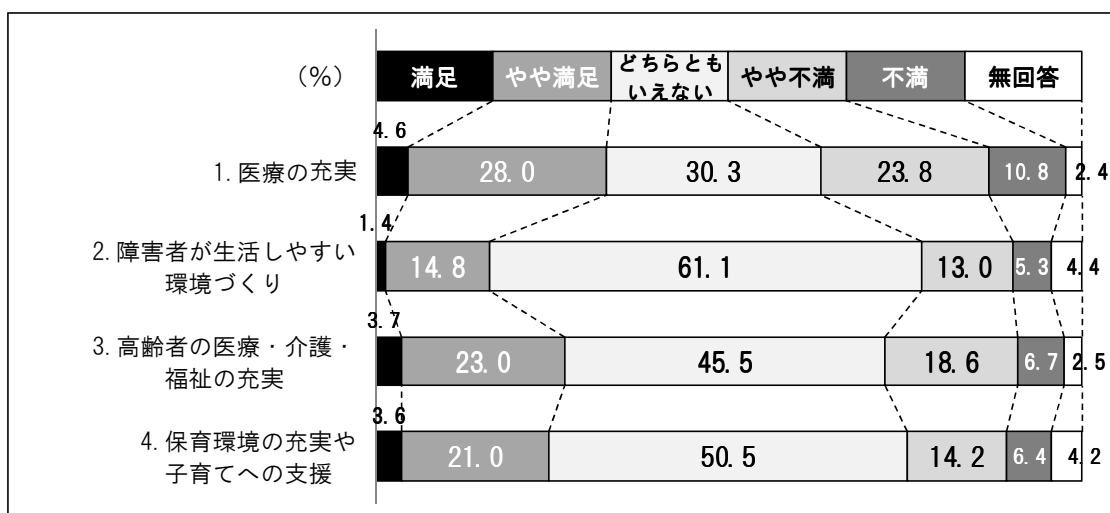
【単数回答】【N=1,015】



#### ④だれもが健やかで幸せに暮らせる健康・福祉のまち

「④だれもが健やかで幸せに暮らせる健康・福祉のまち」に関する取組の評価は、『満足』の割合が高いものから順に、「1. 医療の充実」（『満足』32.6%、『不満』34.6%）、「3. 高齢者の医療・介護・福祉の充実」（『満足』26.7%、『不満』25.3%）、「4. 保育環境の充実や子育てへの支援」（『満足』24.6%、『不満』20.6%）、「2. 障害者が生活しやすい環境づくり」（『満足』16.2%、『不満』18.3%）となっています。いずれの項目も『満足』と『不満』の割合が近く、評価はほぼ半々に分かれています。なお、「1. 医療の充実」と「2. 障害者が生活しやすい環境づくり」では『不満』が『満足』を若干上回る結果となっています。

【単数回答】【N=1,015】

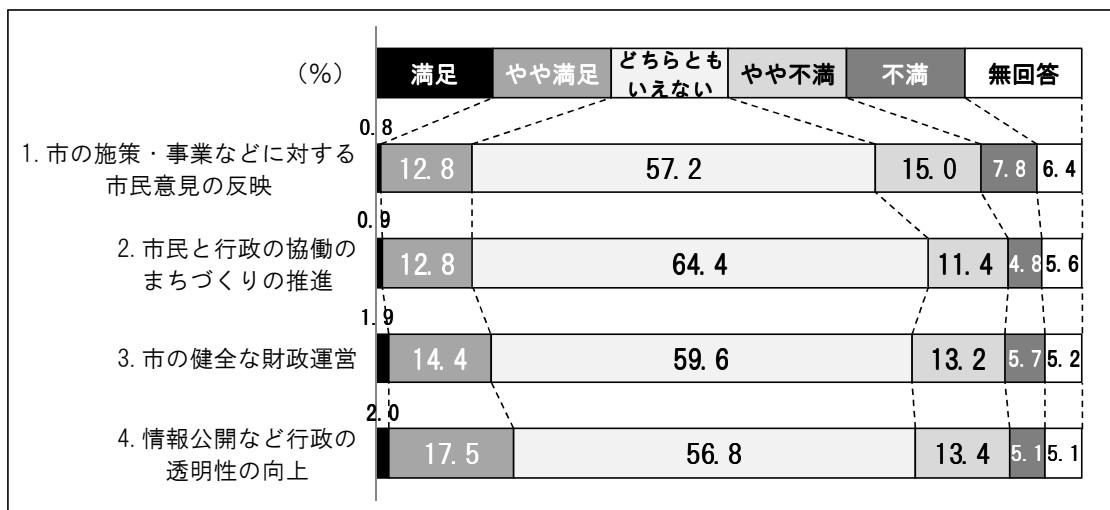


### ⑤市民と行政がともに創る、活力に満ちたまち

「⑤市民と行政がともに創る、活力に満ちたまち」に関する取組の評価は、『満足』の割合が高いものから順に、「4. 情報公開など行政の透明性の向上」(『満足』19.5%、『不満』18.5%)、「3. 市の健全な財政運営」(『満足』16.3%、『不満』18.9%)、「2. 市民と行政の協働のまちづくりの推進」(『満足』13.7%、『不満』16.2%)、「1. 市の施策・事業などに対する市民意見の反映」(『満足』13.6%、『不満』22.8%)となっています。

「4. 情報公開など行政の透明性の向上」では『満足』が『不満』を上回っていますが、他の3項目はいずれも『不満』の方が若干上回る評価となっています。また、この分野の取組は「どちらともいえない」の割合がいずれも6割前後を占めています。

【単数回答】【N=1,015】



問 10 取組に対する重要度

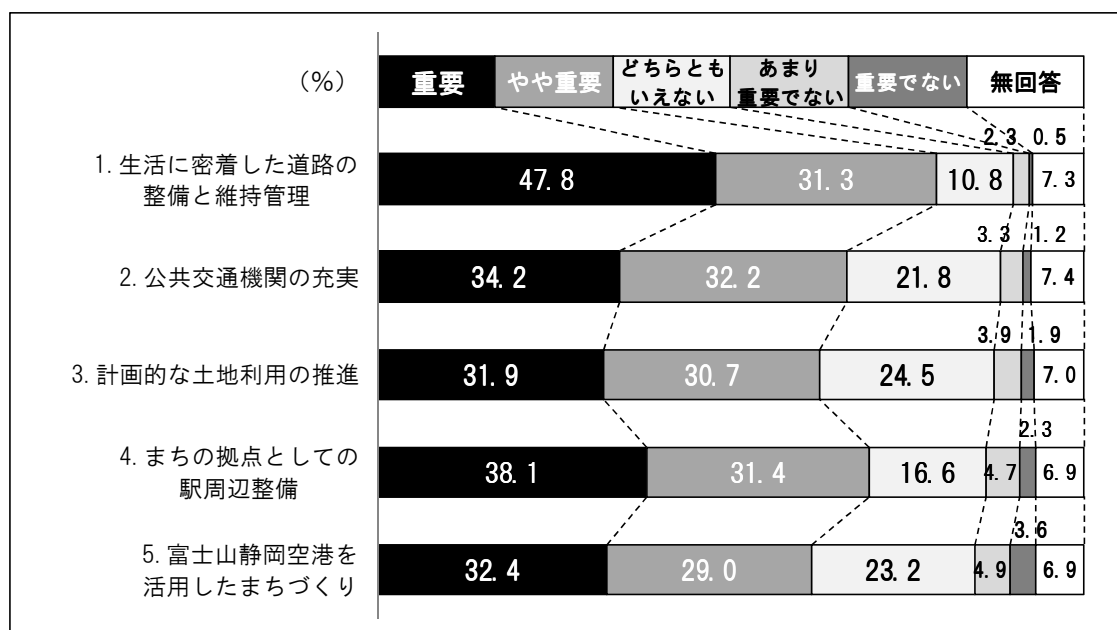
現在の総合計画で進めてきた、まちづくりの取組（重点プロジェクト）について、それぞれどう思いますか。これまでの取組に対する『重要度』についてそれぞれ1～5の中から1つに○印をつけてください。

①都市基盤が充実し、ひとやもの、情報が活発に交流するまち

「①都市基盤が充実し、ひとやもの、情報が活発に交流するまち」に関する取組の中で最も重要度が高いものは「1.生活に密着した道路の整備と維持管理」で、「重要」と「やや重要」を合わせた『重要である』の割合が79.1%を占めています。次いで、「4.まちの拠点としての駅周辺整備」(69.5%)、「2.公共交通機関の充実」(66.4%)、「3.計画的な土地利用の推進」(62.6%)、「5.富士山静岡空港を活用したまちづくり」(61.4%)の順となっており、5項目全てで『重要である』の割合が6割を超えています。

一方、『重要でない』（「重要でない」と「あまり重要でない」の合計、以下同じ）の割合は、いずれも1割未満にとどまっています。

【単数回答】【N=1,015】

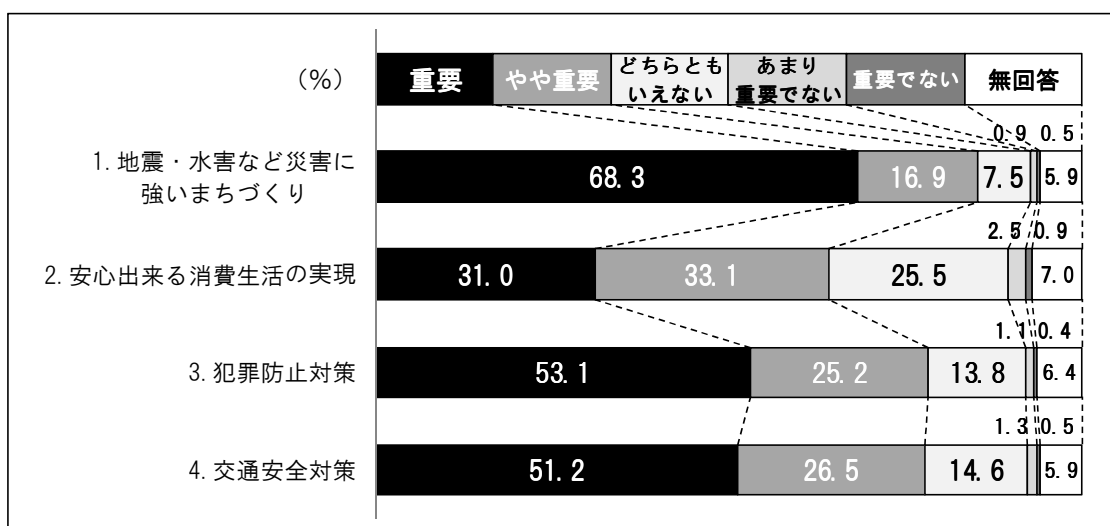


## ②市民が安全・安心に暮らせるまち

「②市民が安全・安心に暮らせるまち」に関する取組の中で最も重要度が高いものは「1. 地震・水害など災害に強いまちづくり」で、『重要である』の割合が 85.2%あり、そのうち「重要」の割合は全 21 項目中で 2 番目に高い 68.3%となっています。次いで、「3. 犯罪防止対策」(78.3%)、「4. 交通安全対策」(77.7%)、「2. 安心出来る消費生活の実現」(64.1%) の順となっており、4 項目ともに『重要である』の割合が 6 割を超えています。

一方、『重要でない』の割合は、いずれも 4%未満にとどまっています。

【単数回答】【N=1,015】

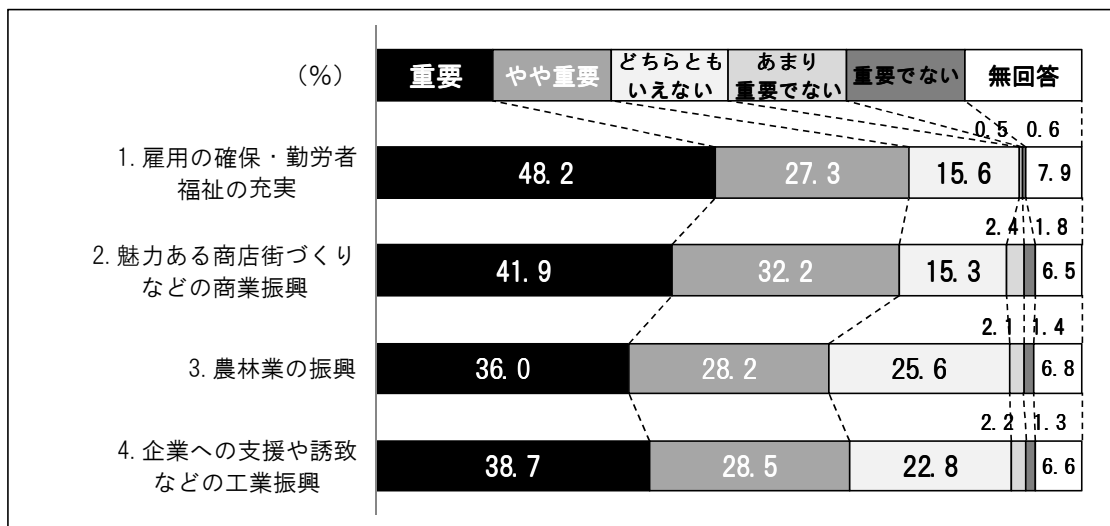


### ③産業がいきいきと活発なまち

「③産業がいきいきと活発なまち」に関する取組の中で最も重要度が高いものは「1. 雇用の確保・勤労者福祉の充実」で、『重要である』の割合が75.5%を占めています。次いで、「2. 魅力ある商店街づくりなどの商業振興」(74.1%)、「4. 企業への支援や誘致などの工業振興」(67.2%)、「3. 農林業の振興」(64.2%)の順となっており、4項目全てで『重要である』の割合が6割を超えています。

一方、『重要でない』の割合は、いずれも1割未満にとどまっています。

【単数回答】【N=1,015】



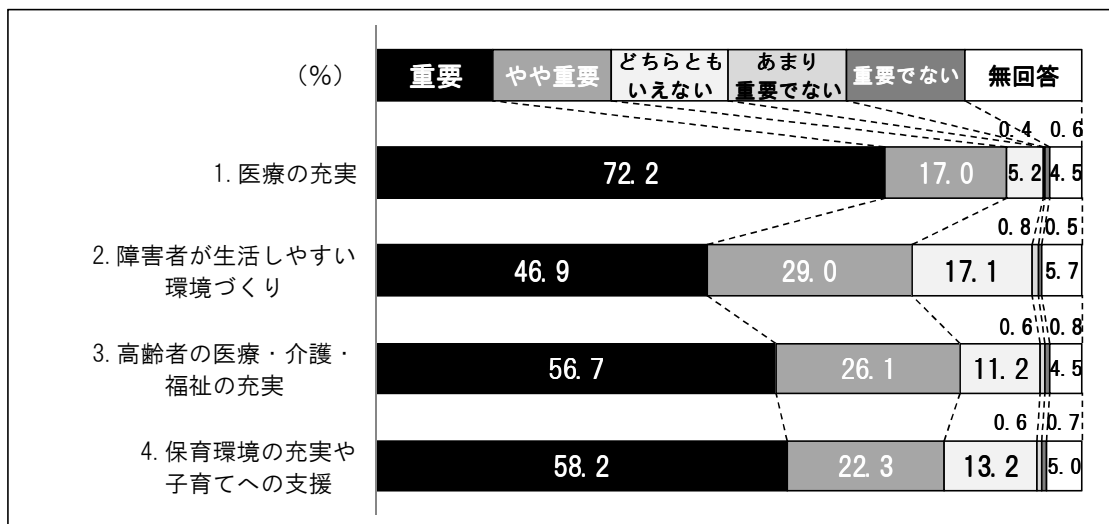


#### ④だれもが健やかで幸せに暮らせる健康・福祉のまち

「④だれもが健やかで幸せに暮らせる健康・福祉のまち」に関する取組の中で最も重要度が高いものは「1. 医療の充実」で、『重要である』の割合が 89.2%を占めており、そのうち「重要」の割合は全 21 項目中で最も高い 72.2%となっています。次いで、「3. 高齢者の医療・介護・福祉の充実」(82.8%)、「4. 保育環境の充実や子育てへの支援」(80.5%)、「2. 障害者が生活しやすい環境づくり」(75.9%) の順となっており、全ての項目で『重要である』の割合が7割を超えています。

一方、『重要でない』の割合は、いずれもわずか2%未満にとどまっており、この分野への市民の関心の高さが伺えます。

【単数回答】【N=1,015】

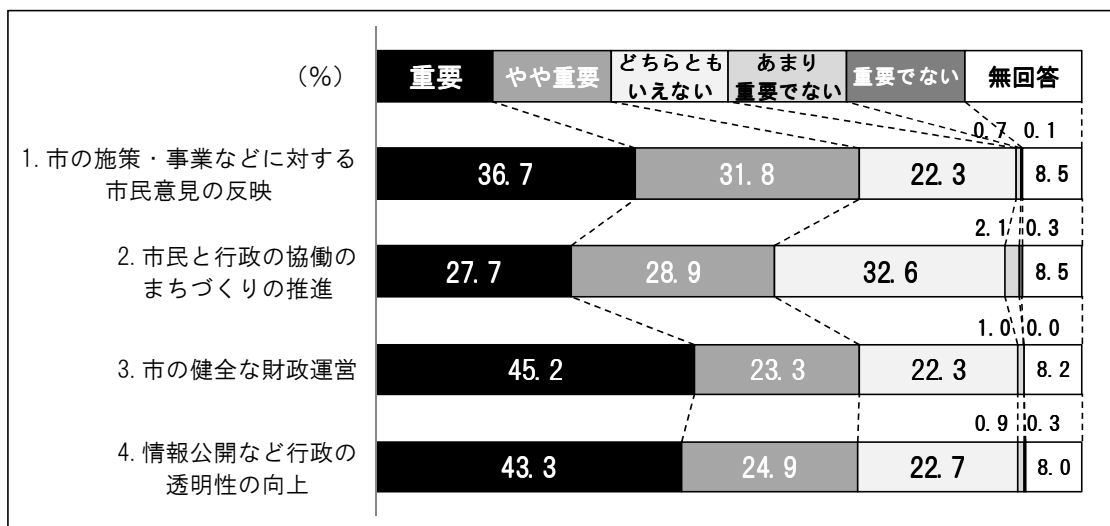


### ⑤市民と行政がともに創る、活力に満ちたまち

「⑤市民と行政がともに創る、活力に満ちたまち」に関する取組の中で最も重要度が高いものは「3. 市の健全な財政運営」(『重要である』68.5%、うち「重要」45.2%)となっています。次いで、「1. 市の施策・事業などに対する市民意見の反映」(『重要である』68.5%、うち「重要」36.7%)、「4. 情報公開など行政の透明性の向上」(『重要である』68.2%)、「2. 市民と行政の協働のまちづくりの推進」(『重要である』56.6%)の順となっています。

一方、『重要でない』の割合は、いずれも3%未満にとどまっています。

【単数回答】【N=1,015】



### 3 今後のまちづくりについて

島田市において、日常生活や学習、経済活動等の中心的な役割を担っていると考えられる場所について、おおむね図のように示してみました。これらの場所（拠点）について、あなたはどのように利用（活動）していますか。次ページからの設問にそれぞれお答えください。

#### 問 11 利用拠点

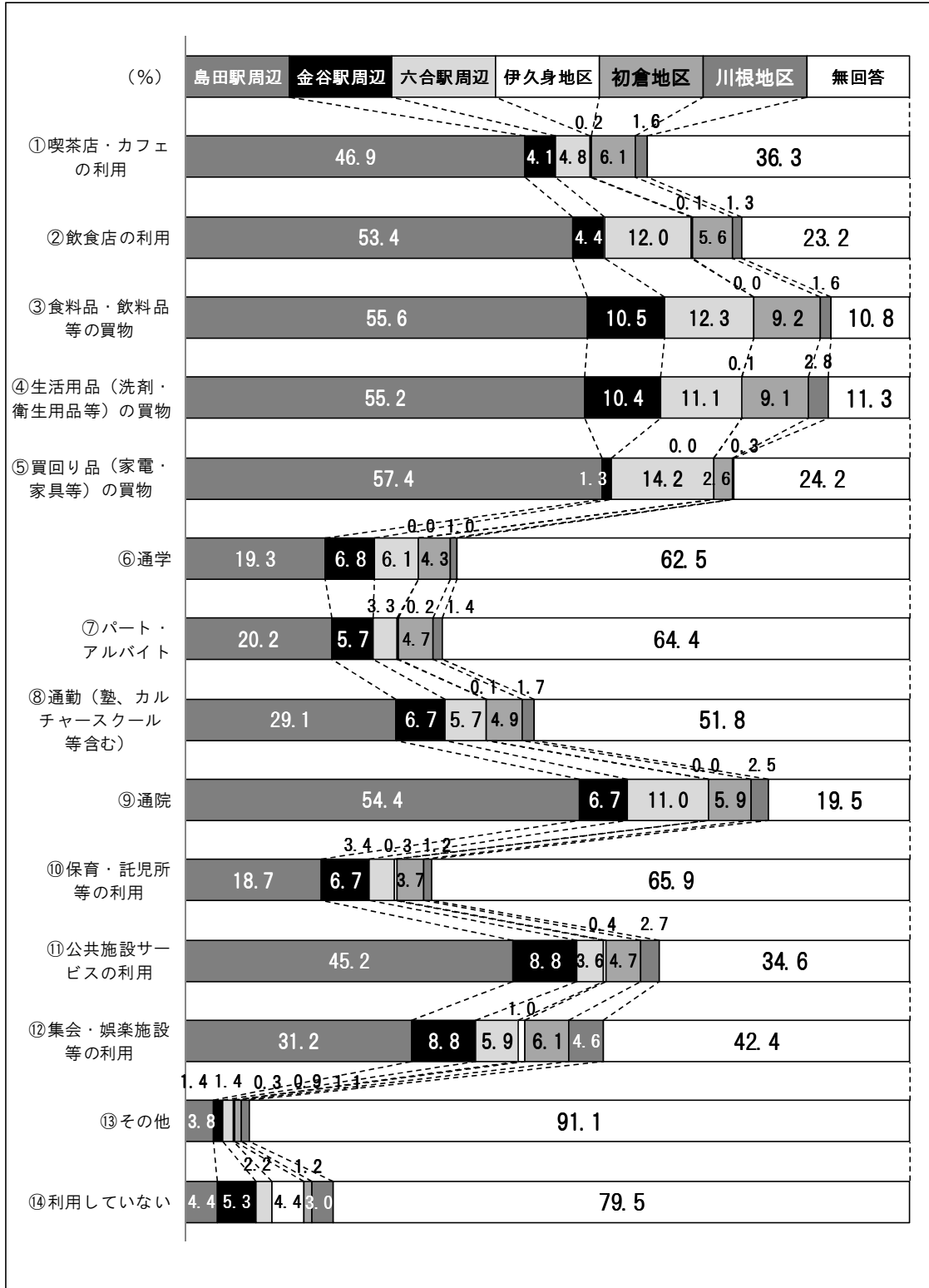
以下の項目について、主にどの拠点で利用されますか。下欄にお答えください。それぞれ1～6の中から1つに○印をつけてください。

利用拠点については、すべての拠点で『島田駅周辺』の割合が最も高くなっています。「無回答」を除けば、いずれの拠点でも「島田駅周辺」の利用が過半数を占めています。「買回り品（家電・家具等）の買物」（「無回答」を除く 75.8%）や「喫茶店・カフェの利用」（同 73.6%）、「飲食店の利用」（同 69.5%）、「公共施設サービスの利用」（同 69.1%）、「通院」（同 67.6%）などで『島田駅周辺』の利用割合がとくに高くなっています。

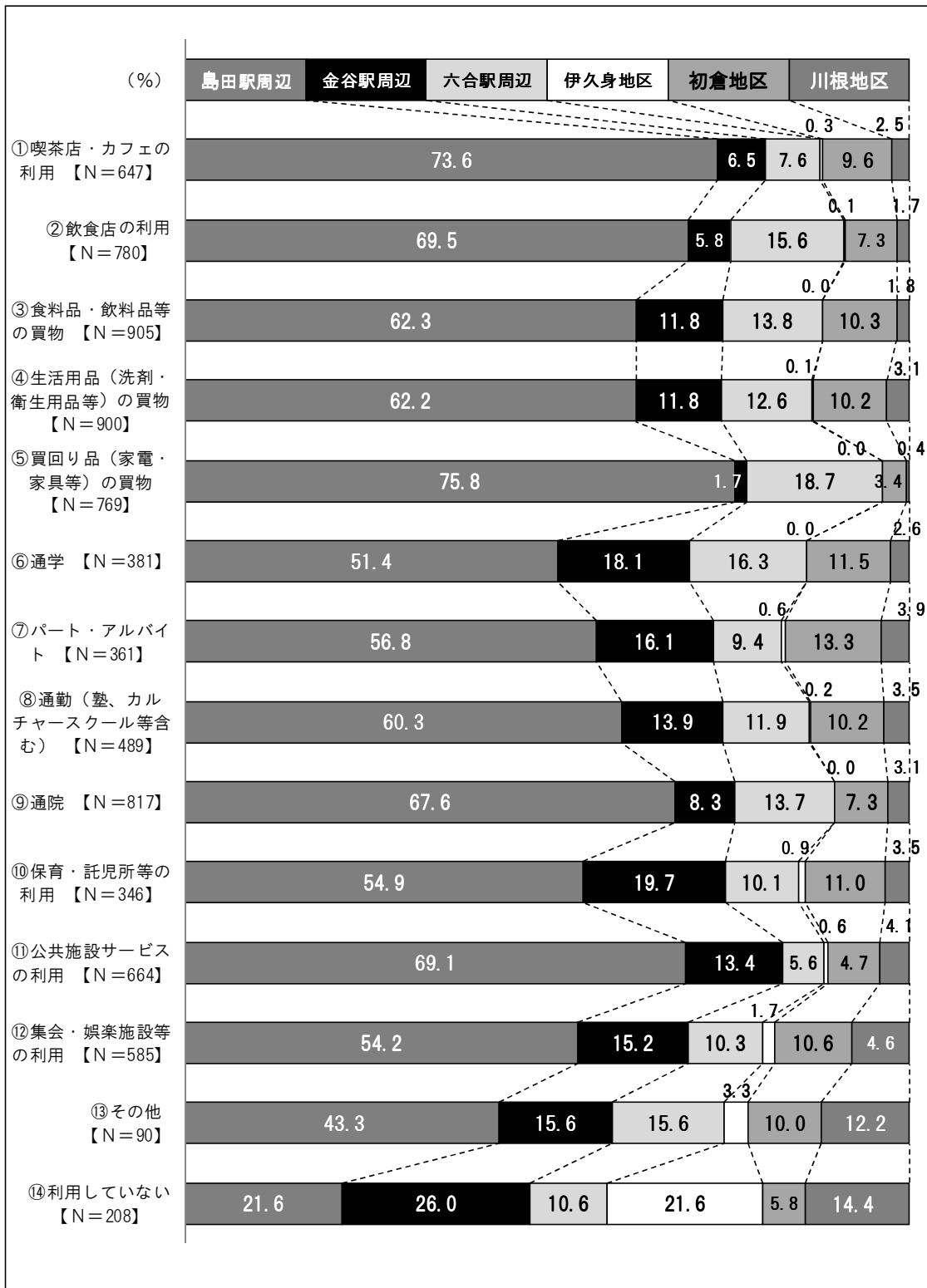
2番目に利用割合が高いのは、『金谷駅周辺』（通学、パート・アルバイト、通勤（塾、カルチャースクール等含む）、保育・託児所等、公共施設サービス、集会・娯楽施設等の6拠点）や『六合駅周辺』（飲食店、食料品・飲料品等の買物、生活用品（洗剤・衛生用品等）の買物、買回り品（家電・家具等）の買物、通院の5拠点）、『初倉地区』（喫茶店・カフェの1拠点）などとなっています。

一方、『伊久身地区』と『川根地区』を主に利用するとの回答は低く、いずれの拠点でも全体の5%未満となっています。

【単数回答】【N=1,015】



【単数回答】（「無回答」を除いた利用拠点の分布）



問 12 利用頻度

前問でお答えの利用のある拠点ごとに、その頻度を下欄にお答えください。  
それぞれ1～5の中から1つに○印をつけてください。

利用頻度については、「無回答」を除いた合計では『島田駅周辺』(85.5%)の割合が圧倒的に高く、次いで、『六合駅周辺』(50.0%)、『金谷駅周辺』(46.9%)、『初倉地区』(40.7%)、『川根地区』(35.3%)、『伊久身地区』(28.1%)となっています。

『島田駅周辺』では、「ほぼ毎日」(24.2%)や「週に1～2回」(29.7%)など、より頻繁に利用する割合が高く、両者を合わせると全体の過半数が週1回以上利用すると回答しています。

『金谷駅周辺』の利用頻度は「年に1～2回」(19.8%)の割合が最も高く、次いで、「週に1～2回」(7.8%)、「ほぼ毎日」(7.2%)となっています。

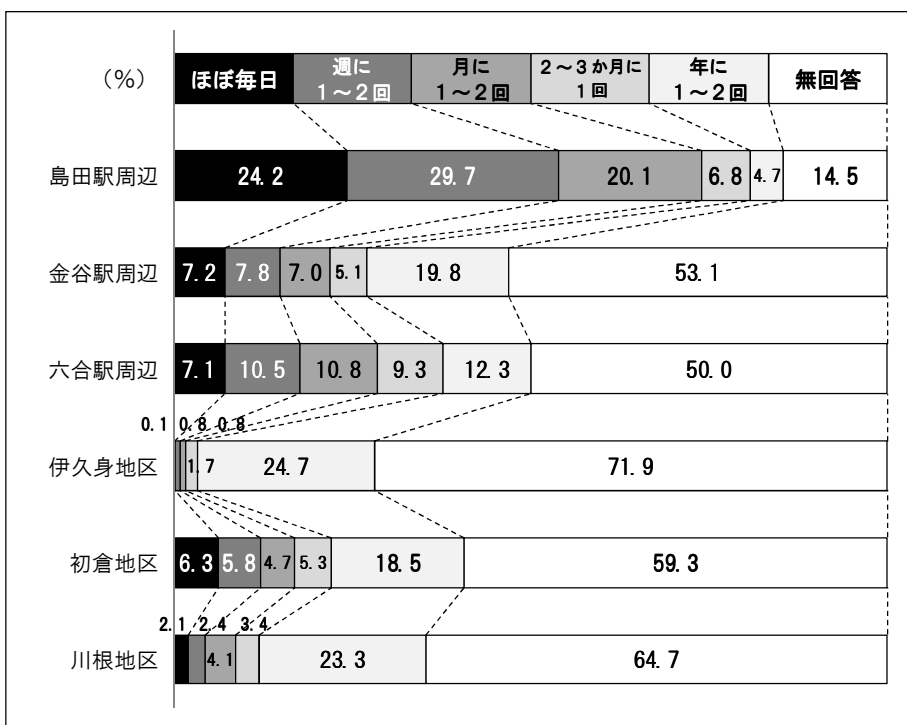
『六合駅周辺』の利用頻度は「年に1～2回」(12.3%)の割合が最も高く、次いで、「月に1～2回」(10.8%)、「週に1～2回」(10.5%)となっています。

『伊久身地区』の利用頻度は「年に1～2回」(24.7%)の割合が最も高く、次いで、「2～3か月に1回」(1.7%)や「月に1～2回」(0.8%)など、利用頻度は非常に低くなっています。

『初倉地区』の利用頻度は「年に1～2回」(18.5%)の割合が最も高く、次いで、「ほぼ毎日」(6.3%)、「週に1～2回」(5.8%)となっています。

『川根地区』の利用頻度は「年に1～2回」(23.3%)の割合が最も高く、次いで、「月に1～2回」(4.1%)、「2～3か月に1回」(3.4%)となっています。

【単数回答】【N=1,015】



### 問 13 主な交通手段

現在のお住まいから、前問で利用（活動）されている各拠点への主な交通手段を1つ選んで、拠点ごとに数字を記入してください。

主な交通手段については、「自家用車」の割合が圧倒的に高く、すべての地域で交通手段を答えた人の7割以上が「自家用車」と回答しています。とくに『伊久身地区』（「無回答」を除く91.9%）や『初倉地区』（同91.7%）、『川根地区』（同90.7%）では9割以上が主に自家用車を利用しています。なお、『島田駅周辺』や『金谷駅周辺』、『六合駅周辺』などの鉄道駅に近い地域では、「自転車」や「徒歩」の割合が自家用車の次に高くなっています。

地域別の利用状況は、『島田駅周辺』では、割合の高いものから「自家用車」（64.4%）、「自転車」（9.2%）、「徒歩」（5.1%）、「バス」（2.3%）、「鉄道」（1.8%）、「バイク」（0.7%）、「タクシー」（0.5%）、「その他」（0.2%）の順となっています。

『金谷駅周辺』では、「自家用車」（42.0%）、「自転車」（2.7%）、「徒歩」（2.5%）、「鉄道」（1.4%）、「バイク」（0.9%）、「バス」（0.7%）、「その他」（0.6%）、「タクシー」（0.1%）の順となっています。

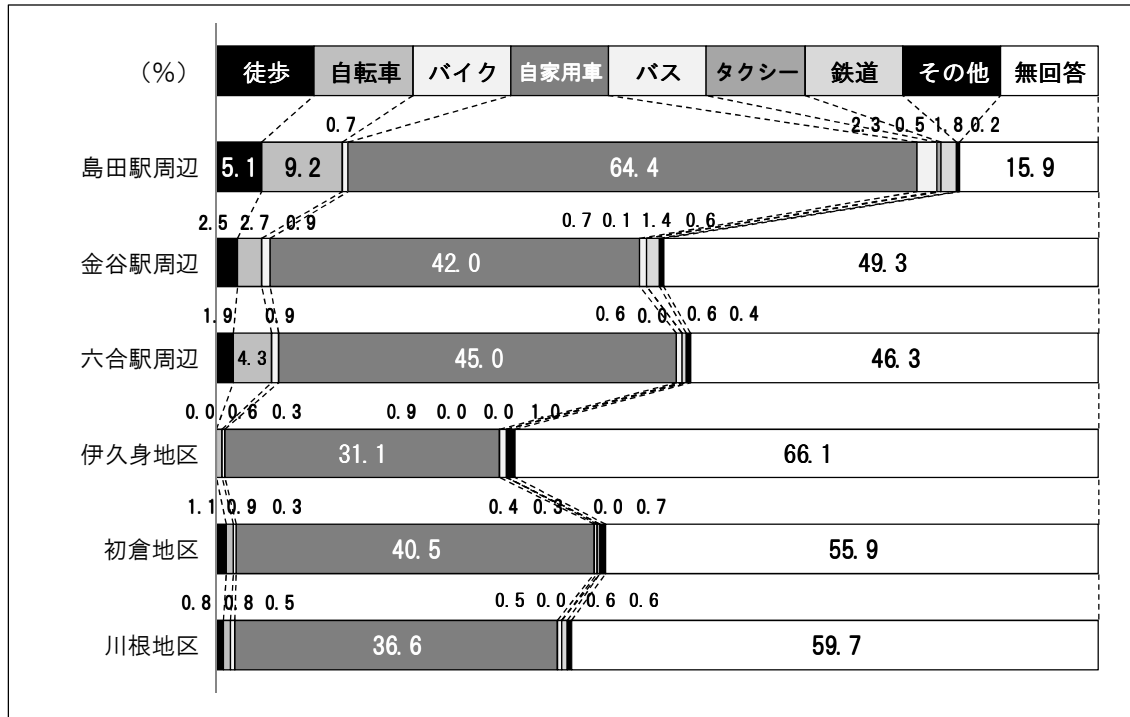
『六合駅周辺』では、「自家用車」（45%）、「自転車」（4.3%）、「徒歩」（1.9%）、「バイク」（0.9%）、「バス」または「鉄道」（0.6%）、「その他」（0.4%）の順となっています。主にタクシーを利用するという回答はありません。

『伊久身地区』では、「自家用車」（31.1%）、「その他」（1%）、「バス」（0.9%）、「自転車」（0.6%）、「バイク」（0.3%）の順となっています。主に徒歩、タクシー、鉄道を利用するという回答はありません。

『初倉地区』では、「自家用車」（40.5%）、「徒歩」（1.1%）、「自転車」（0.9%）、「その他」（0.7%）「バス」（0.4%）、「バイク」（0.3%）、「タクシー」（0.3%）の順となっています。主に鉄道を利用するという回答はありません。

『川根地区』では、「自家用車」（36.6%）、「徒歩」または「自転車」（0.8%）、「鉄道」または「その他」（0.6%）、「バイク」または「バス」（0.5%）の順となっています。主にタクシーを利用するという回答はありません。

【単数回答】【N=1,015】





## 島田駅周辺（中心市街地）について

### 問 14-1 中心市街地（行き先）

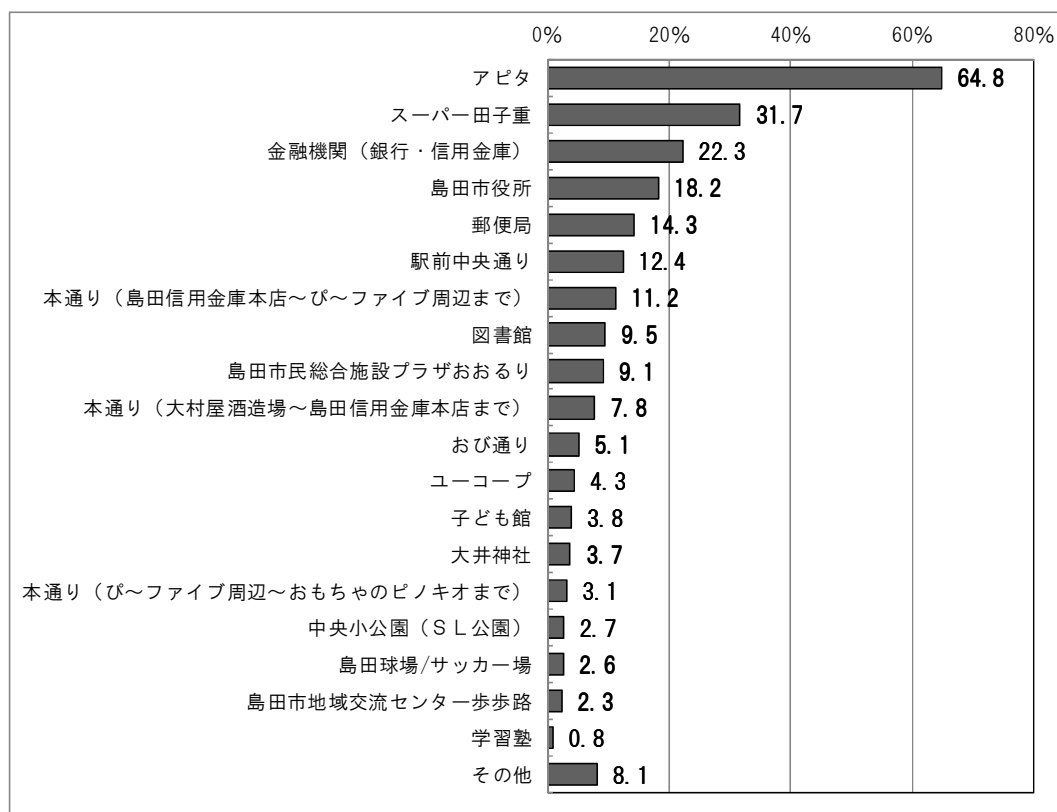
中心市街地では、具体的にどこに行くことが多いですか？（3つまでに○）

島田駅周辺（中心市街地）で行く事が多い場所としては、「アピタ」（64.8%）や「スーパー田子重」（31.7%）など、日常的な買い物のできる場所がとくに高く、次いで、「金融機関（銀行・信用金庫）」（22.3%）や「島田市役所」（18.2%）、「郵便局」（14.3%）などの公共サービス機関が上位を占めています。

よく行く通りとしては、「駅前中央通り」（12.4%）の割合が最も高く、次いで、「本通り（島田信用金庫本店～び～ファイブ周辺まで）」（11.2%）や「本通り（大村屋酒造場～島田信用金庫本店まで）」（7.8%）などとなっています。

「子ども館」（3.8%）や「中央小公園（S L公園）」（2.7%）、「島田球場/サッカー場」（2.6%）、「学習塾」（0.8%）など、主な利用者が子どもや若者などと想定される施設では割合が低い傾向にあります。これについては、回答者の年齢構成として「10歳代」（1.0%）や「20歳代」（5.3%）の割合が少ないこととも要因の1つと推察されます。

【複数回答】【N=1,015】

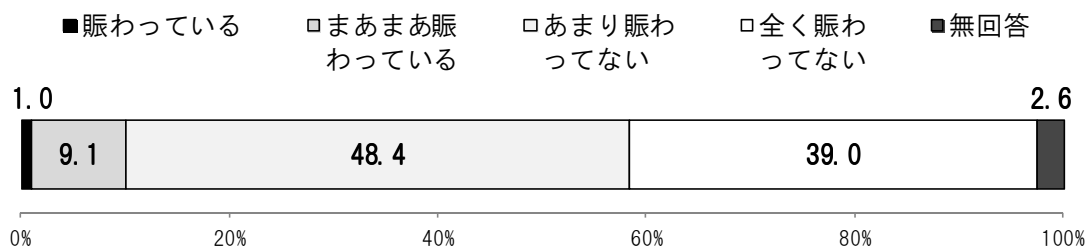


問 14-2 中心市街地（賑わい）

中心市街地は賑わっていると思いますか。（1つに○印）

中心市街地が賑わっているかについては、『賑わっている』（「賑わっている」と「まあまあ賑わっている」の合計、10.1%）が約1割であるのに対し、残りの9割近くが『賑わっていない』（「あまり賑わっていない」と「全く賑わっていない」の合計、87.4%）と回答しています。

【単数回答】【N=1,015】

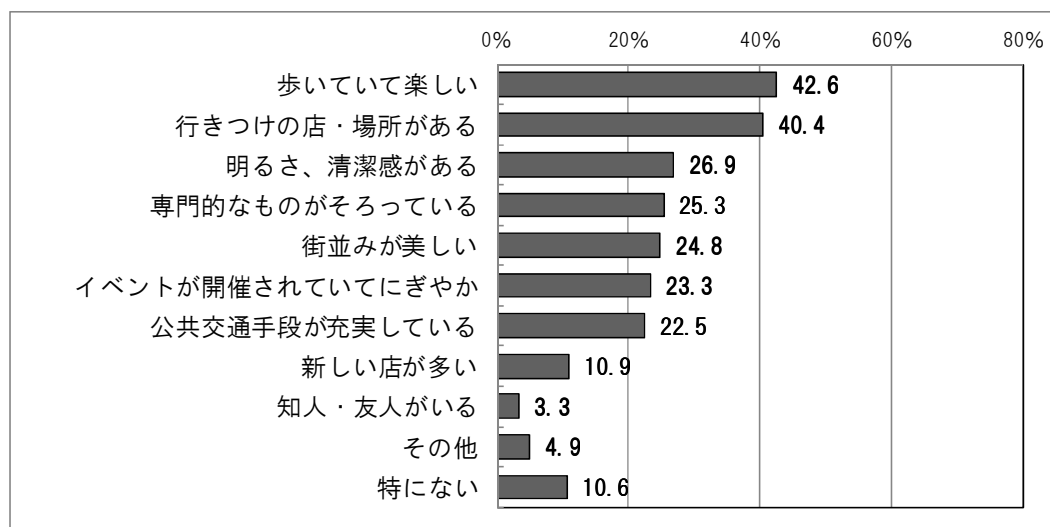


問 14-3 中心市街地（望ましいこと）

中心市街地として望ましいのはどんなことだと思いますか。（3つまで○印）

中心市街地として望ましいことでは、「歩いていて楽しい」（42.6%）や「行きつけの店・場所がある」（40.4%）などが特に高くなっています。

【複数回答】【N=1,015】



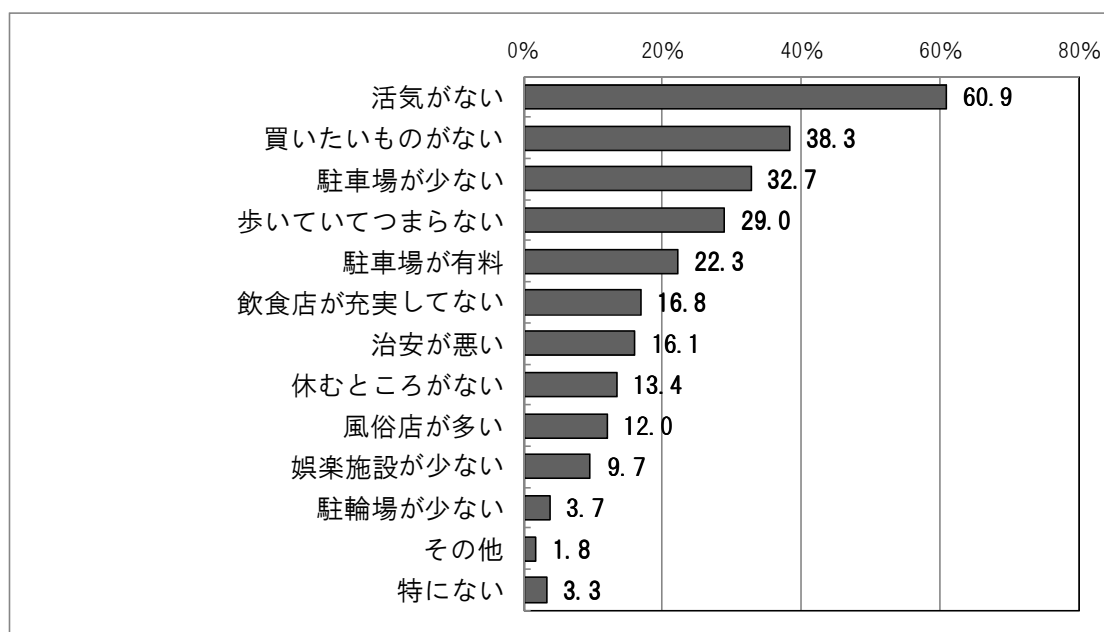
#### 問 14-4 中心市街地（望ましくないこと）

中心市街地として望ましくないのはどんなことだと思いますか。（3つまで○印）

中心市街地として望ましくないことでは、「活気がない」がとくに高く、60.9%に達しています。次いで、「買いたいものがない」（38.3%）、「駐車場が少ない」（32.7%）、「歩いていてつまらない」（29%）、「駐車場が有料」（22.3%）などとなっています。

駐車場に関する項目がいずれも上位に入っていることは、自家用車利用率の高い地域性（設問 13）とも一致しています。

【複数回答】【N=1,015】



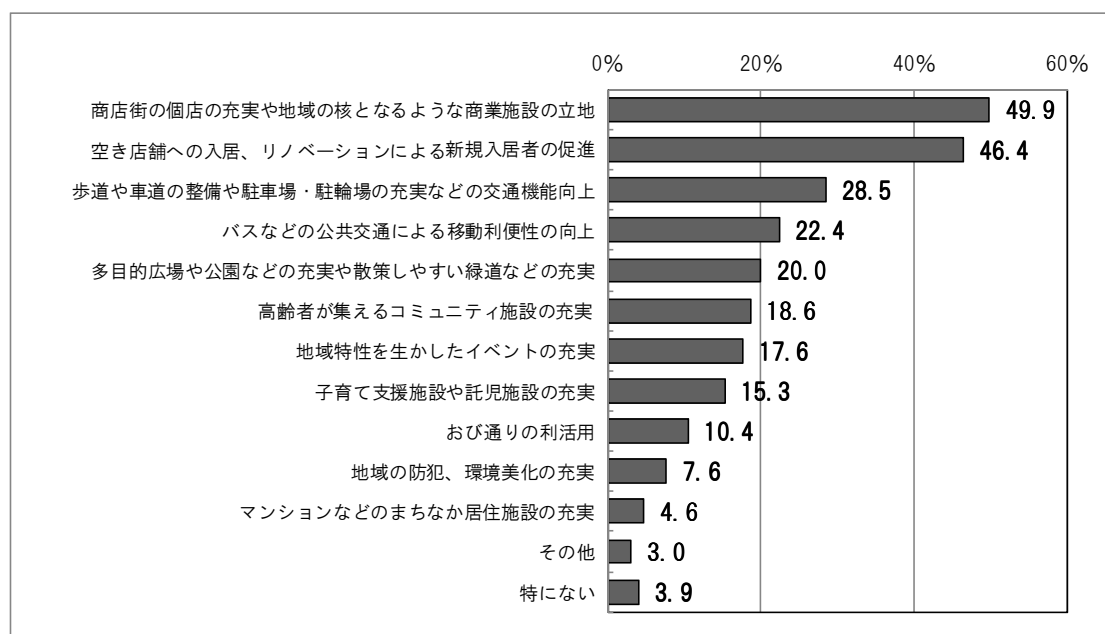
問 14-5 中心市街地（魅力を高めるために必要な事）

今後、中心市街地の魅力を高めるために必要なことは何だと思えますか。  
（3つまで○印）

中心市街地の魅力を高めるために必要な事では、「商店街の個店の充実や地域の核となるような商業施設の立地」（49.9%）や「空き店舗への入居、リノベーションによる新規入居者の促進」（46.4%）など、買い物拠点の充実に関する項目がとくに高くなっています。

次いで、「歩道や車道の整備や駐車場・駐輪場の充実などの交通機能向上」（28.5%）や「バスなどの公共交通による移動利便性の向上」（22.4%）など、交通に関する項目が上位に挙がっています。

【複数回答】【N=1,015】



問 15 将来像

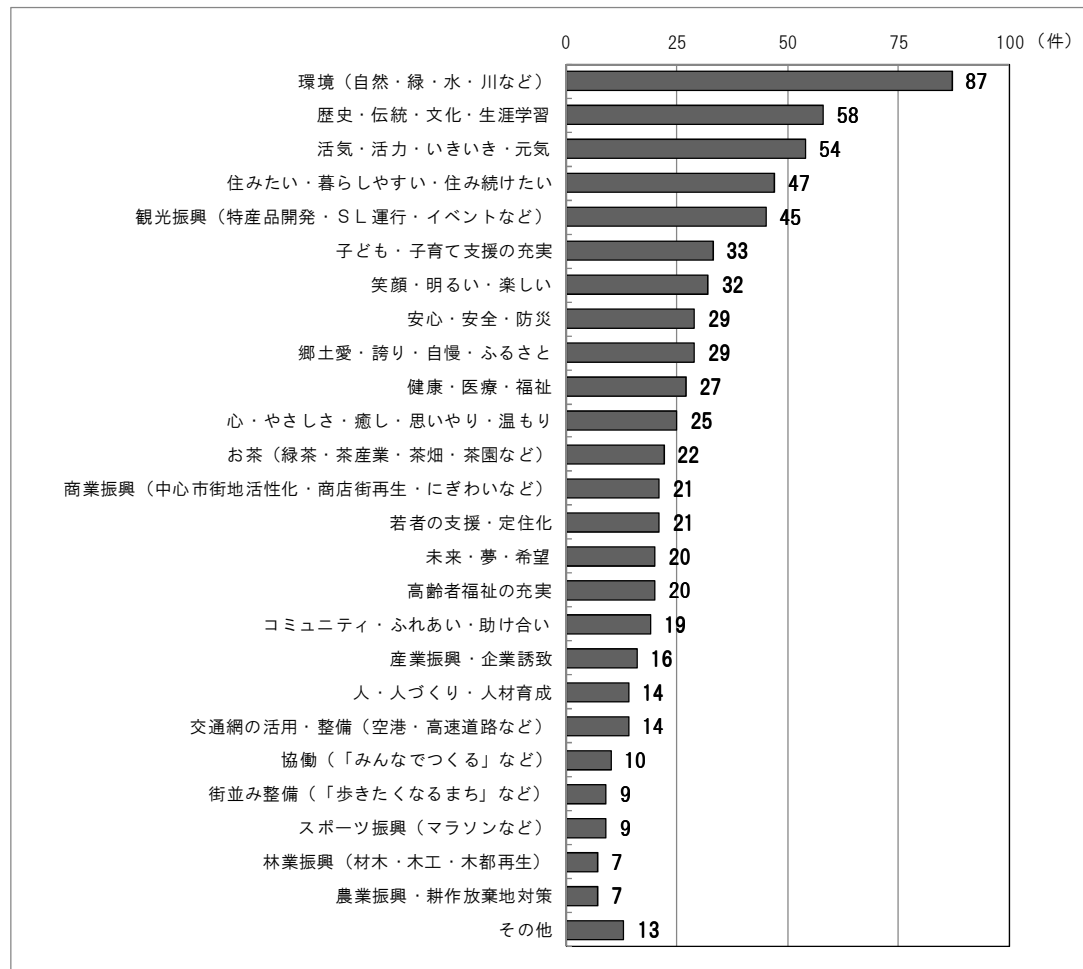
現在定められている将来像「人と産業・文化の交流拠点 水と緑の健康都市 島田」等をもとに、これからの新しい島田市づくりに向けて、目指すべきまちのイメージや、島田市にふさわしいと思うキャッチフレーズなどを下欄に自由に記してください。<いくつでも結構です>

将来像について寄せられた自由記入（計 345 件）をもとに主なキーワードを分類したところ、最も多く挙げられているのは「環境（自然・緑・水・川など）」（87 件）に関するものとなっています。

次いで、「歴史・伝統・文化・生涯学習」（58 件）や、「活気・活力・いきいき・元気」（54 件）、「住みたい・暮らしやすい・住み続けたい」（47 件）、「観光振興（特産品開発・SL 運行・イベントなど）」（45 件）などが多く挙げられています。

その他、島田市ならではの特徴的なものとしては、「お茶（緑茶・茶産業・茶畑・茶園など）」（22 件）、「交通網の活用・整備（静岡空港・高速道路など）」（14 件）、「スポーツ振興（マラソンなど）」（9 件）、「林業振興（材木・木工・木都再生）」（7 件）などもみられます。

【自由記入】【N=1,015】



問 16 マニフェスト

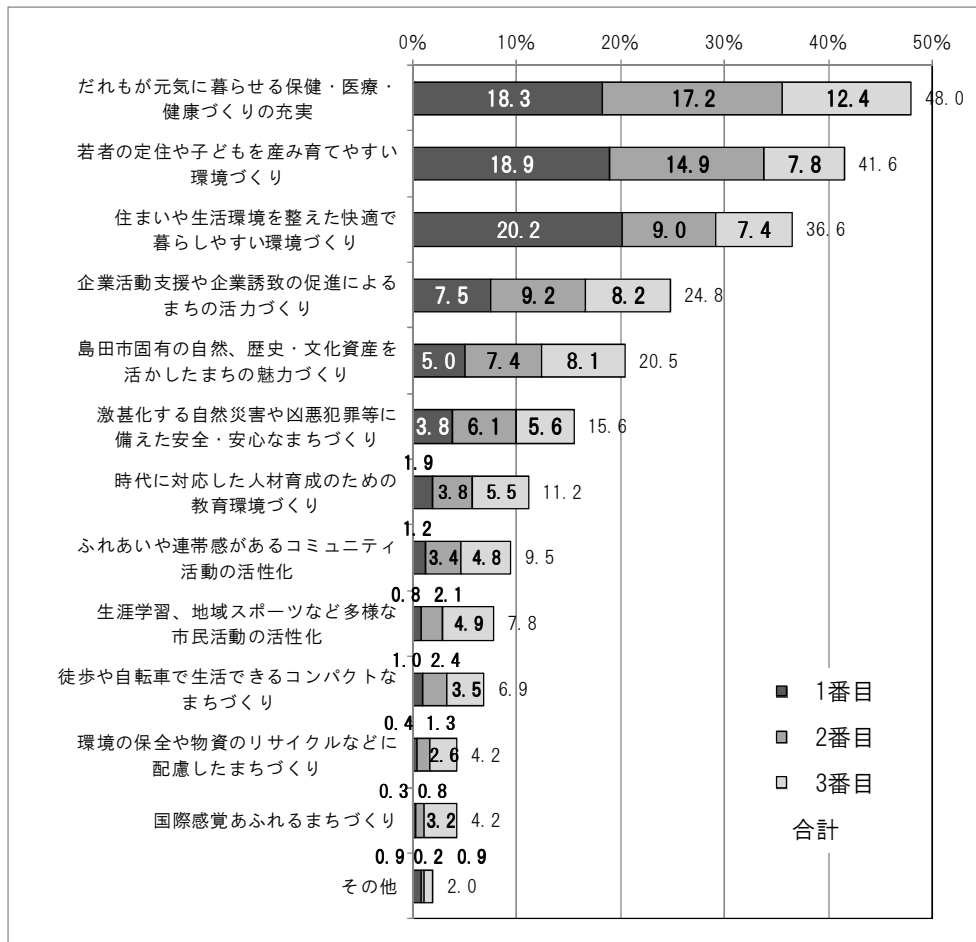
前問に記した島田市の将来イメージやキャッチフレーズにふさわしいまちづくりを進めていくために、もしあなたが、市長に立候補するとしたら、どのようなマニフェストを掲げたいと思いますか。

< 3 つまで該当する番号を選んで順位欄に記入して下さい >

マニフェストについては、1 番目から 3 番目までの合計の割合では「だれもが元気に暮らせる保健・医療・健康づくりの充実」(48.0%) が最も高く、次いで、「若者の定住や子どもを産み育てやすい環境づくり」(41.6%)、「住まいや生活環境を整えた快適で暮らしやすい環境づくり」(36.6%)、「企業活動支援や企業誘致の促進によるまちの活力づくり」(24.8%)、「島田市固有の自然、歴史・文化資産を活かしたまちの魅力づくり」(20.5%) の順となっています。

「1 番目」の割合だけを比べると、「住まいや生活環境を整えた快適で暮らしやすい環境づくり」(20.2%) が最も高く、次いで、「若者の定住や子どもを産み育てやすい環境づくり」(18.9%)、「だれもが元気に暮らせる保健・医療・健康づくりの充実」(18.3%) の上位 3 項目がとくに高くなっています。

【複数回答】【N=1,015】



## 問 17 総合計画において進めていくべき取組

新しい総合計画において進めていくべきと考えられる、下表に記す取組についてどのように感じますか。期待度についてそれぞれ1～5の中から1つに○印をつけてください。また、「わからない」と回答した場合以外については、その理由も簡単に記してください。

総合計画において進めていくべき取組では、「⑥-1 子どもを安心して産み育てられる子育て支援体制の充実」への期待度が最も高く、『期待する』（「大いに期待する」と「まあ期待する」の合計、以下同じ）は69.0%に達しています。

『期待する』の割合が3番目に高い「①若者に対する島田市内での定住に関する対策」は、「大いに期待する」（38.2%）のみの比較では「⑥-1」と同率の1位となっています。いずれも、少子化や人口減少などに対応する取組であり、こうした取組への期待度が非常に高くなっています。

2番目に『期待する』の割合が高い取組は、「④SLや温泉、ニューツーリズムや歴史・文化資源を活用した観光の推進」（67.1%）です。4番目の「⑤茶のまちとしての島田市ならではの商品の開発やブランド化の推進」（60.5%）とあわせ、観光面での市の魅力向上にも大きな期待が寄せられています。

その他の取組としては、「⑦商業・サービス産業の活性化」（56.7%）や「②空港やインターの立地をふまえた、市外部との交流を促進する拠点形成の充実」（56.4%）、「⑥-2 大規模店の出店や工場の誘致」（52.7%）、「⑨安心して暮らし続けられる明るい地域社会（コミュニティ）の形成に向けた、多世代交流・共生の取組」（51.8%）などで『期待する』が5割を超えています。なお、『期待する』の割合が7番目に高い「⑥-2 大規模店の出店や工場の誘致」では、『期待しない』（「あまり期待しない」と「期待しない」の合計）の割合も17.3%あり、他と比べてやや高くなっています。

一方、取組の全体を通して期待度が低いものほど「わからない」の割合が高まる傾向にあり、期待度で最下位にある「⑧市民協働まちづくりをさらに促すための対策」（『期待する』39.7%、「わからない」40.7%）や、「⑬拡大する生活圏、経済圏の中、適切な行政サービスの提供を目指した関係自治体との広域行政の推進」（『期待する』40.1%、「わからない」41.9%）などでは、「わからない」が『期待する』を上回る結果となっています。そのことから、いずれの取組についても、市民がその内容をより深く理解し、必要性や重要度などを明確に判断できるよう、引き続き計画の周知に務めることが求められています。

【単数回答】【N=1,015】

(%)	大いに期待する	まあ期待する	わからない	あまり期待しない	期待しない	無回答
⑥-1 子どもを安心して産み育てられる子育て支援体制の充実	38.2	30.7	17.0	2.8	1.7	9.6
④ S L や温泉、ニューツーリズムや歴史・文化資源を活用した観光の推進	27.4	39.7	15.5	7.1	2.0	8.4
①若者に対する島田市内での定住に関する対策	38.2	26.1	17.7	7.4	2.4	8.2
⑤茶のまちとしての島田市ならではの商品の開発やブランド化の推進	26.2	34.3	19.4	8.7	3.4	8.0
⑦商業・サービス産業の活性化	26.4	30.3	21.9	9.9	2.1	9.5
②空港やインターの立地をふまえた、市外部との交流を促進する拠点形成の充実	25.6	30.7	21.5	9.7	3.3	9.2
⑥-2 大規模店の出店や工場の誘致	27.4	25.3	21.8	12.5	4.8	8.2
⑨安心して暮らし続けられる明るい地域社会（コミュニティ）の形成に向けた、多世代交流・共生の取組	19.9	31.9	30.0	7.5	1.8	8.9
③市内の鉄道駅周辺や中山間地域との交流を促す日常生活拠点形成の充実	15.1	30.6	31.2	9.1	2.8	11.2
⑫市民利用施設の使用料等における受益と負担の適正化	16.1	27.9	37.1	7.0	2.3	9.7
⑪行政運営の見直しによる事業の縮小や廃止（スリム化）	17.9	25.9	36.3	7.3	2.4	10.2
⑩公共施設マネジメントの着実な実施	15.8	27.9	37.3	6.8	2.3	10.0
⑬拡大する生活圏、経済圏の中、適切な行政サービスの提供を目指した関係自治体との広域行政の推進	16.1	24.0	41.9	6.3	2.0	9.8
⑧市民協働まちづくりをさらに促すための対策	13.4	26.3	40.7	7.1	1.8	10.7



## ◎ワークショップへの参加の意向

ワークショップへの参加の意向については、「なし」が64.6%、「ある」は3.1%となっています。

【単数回答】【N=1,015】

